



TITLE:

先輩からのお言葉

AUTHOR(S):

高橋, 信弘; 加藤, 寛; 谷口, 繁紀; 加地, 健一; 前田, 奈都子; 岡崎, 将也; 猪俣, 明彦

CITATION:

高橋, 信弘 ...[et al]. 先輩からのお言葉. 岩本ゼミナール機関誌 1999, 4: 166-166

ISSUE DATE:

1999-03-24

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/56865>

RIGHT:

先輩からのお言葉

元 TA 大阪市立大学 商学部助教授
高橋 信弘

今年1月の日経新聞で、東大名誉教授の先生が、米国では学位を複数取得した multi-major の研究者等が第一線で活躍していると書いています。そして、マルチタスク中心のポスト工業化社会では、そういった人材育成を進めないと、日本の産業競争力は維持できなくなってしまう、と論じています。

そうだとすると、私のように一つの専門も極められない者は、まず自分の専門を一定の水準まで高めなくてはならない。よって、複数の専門などと言う余裕はない。

おそらく、複数の専門を持つといっても、いっぺんに二つのことが出来るというよりは、まず一つ主要な専門があることが不可欠で、さらに、第二の専門でもある程度活躍できるということなのでしょう。そうであっても、一度に二つのことを追い求めることは、かなりの危険が伴う。下手にそんなことをすれば、どの専門も中途半端になって、何の専門も持っていないのと同じになってしまう。

しかし、その危険はあっても、複数の専門を持つことを目指す意義はあると思います。

第一の理由は、東大の先生が述べているように、時代がそれを要請しているからです。例えば経営コンサルタントとコンピューター、金融と数学といったように、複数の専門を持っていると大活躍できる分野が、今後増えつつあります。

第二の理由は、複数の専門を持っていると、就職などの際、強みを発揮できるからです。専門が一つならば、その分野で自分がかなり優れていても、自分よりもよく出来る人が必ずいます。よって、ほかの人にはない長所を持つ必要があるからです。

第三の理由は、一度に二つのことを追い求めることは、かなり大変なことなので、それを実現するために努力を強いられるからです。ただしこの点は、私自身に当てはめると、かなり怪しいですが。

こちんまりとまとまらず、型破りなのが、京大出身者らしい生き方です。

1 期生 東京エレクトロン勤務
加藤 寛

卒業生の皆さんおめでとうございます。

毎年この時期が来ると、現役生から原稿依頼の電話がかかってきて締め切り間近に会社で急いで書いて、しばらくすると9割くらい内容の理解できない文章で占められた分厚い冊子が送られてくる。今年こそはがんばって読むぞと毎日かばんの中に入っているものの先に読むのはみんなの住所録と各代の近況と先生の言葉。申し訳ないが皆さんのゼミ論は3つくらいは読みます。今年もいくつ読めるか判りませんが、ない頭絞って読ませてもらいます。

今年はOBらしいことをわれわれOBからやれればと考えています。それには私が音頭を取らねばと自覚しております。幸い山本君、峯村君など東京でサポートしてくれる人間がいますので、皆さんチョッと期待して下さいね。

それでは先生が変わらず酒飲みであることを祈って再会の日を楽しみにしております。

2 期生 住友銀行勤務
谷口 繁紀

感覚的に月日が経つのは早く、卒業して3年しか過ぎていないのに、学生時代が遠い昔のように感じます。その分、色々なことが起こっているというのが今なのでしょう。自らが思い描いた道を暴進する人も現れてるようです。

「夢はでっかく！」

でいきましょう。

卒業生への言葉

3 期生 トヨタ勤務
加地 健一

一部のみなさまには、来年までおあずけとなりましたが、5期生の皆様、卒業おめでとうございます。

社会人になると、本当に月日が流れ去っていくようで、機関紙への挨拶文も、ついこの間書いたばかりだと思っていました。一年がこのように短いものだとは、思ってもいませんでした。この一年間、社会人2年生として、十分に充実した生活が送れたのかと考えると、その日ぐらしの連続で、自信をもって答えられないのが不甲斐なく感じます。卒業する皆様も、新しい環境に慣れるのに精一杯かもしれませんが、目標と目的を明確化し、各々のミッション・ステートメント(死語)を念頭にしながら、新しい世界ではばたいてください。

岩本ゼミの状況は、時々、その時のゼミ長さんから報告を受けていますが、3期生の動向についてはあまりゼミのほうに情報が流れていないとおもいますので、この場を借りて報告させていただきます。

- 加地： 依然として、大いなる田舎・名古屋市のさらに田舎の豊田市在住。
週末は5年ローンで購入したアルテッツァで、田舎の走り屋をしているとのこと。
- マイケル： 昨年結婚。現在、東京在住。仕事でアメリカに出張したが、英語が通じなかったらしい。
- 桐山： 毎日新聞に移籍。昨年は名古屋の実家に在野。読書家は健在。
- 田中： 結婚決定。名字が伊藤に。3期生の男性の多くが失恋することになる。
- 前田： 独身健在。滋賀県で残業と休日出勤の毎日を送っている模様。
- 下村： 墨田区に転居。ゼミ生としてカウントされていることに安堵している。
英語のEメールに、放送禁止用語が頻繁に現れることが、彼の生活環境を物語っている。
- 鎌田： 彼のEメールが日本語を扱えないことなどから、英語漬けの生活を送っている模様。
- 柴田： 高山市役所の美人筆頭として活躍中。東海北陸道開通により、アクセスがよくなった模様。
- 濱： 3期生唯一の高級官僚。明瞭で簡潔なEメールが防衛庁らしい。
- 藤原： 相変わらずの消息不明。

今年は、青竹会開催の年ですので、9月に皆様にお会いできることを楽しみにしております。最後にもう一度、卒業、おめでとうございます。

岩本ゼミのみなさまへ

三期生 松下電器産業株式会社 勤務
前田 奈都子

第5期生のみなさま、ご卒業おめでとうございます。

岩本ゼミも早くも5回目の巣立ちを迎え、時の流れの早さをしみじみと感じます。

今春社会人になれるみなさま、そしてまだ楽しい学生生活を過ごしていられっやるみなさまに、大変恐縮ながら社会人2年目の私が最近感じることにについて触れてみたいと思います。

「仕事に追われてただ毎日が過ぎるのが怖い」というのが現在の率直な気持ちです。

仕事を始めると、つい仕事中心の生活になり本当に時が光のように過ぎて行きます。

毎日同じ人と夜遅くまで働いて、週末には疲れてダウン——— こんな毎日ですが、ふと我に返ったとき、何とも言い難い空虚感に襲われました。

アメリカ人はしきりに “RICH LIFE” という言葉を口にします。

仕事も重要ですが、絶対に大切にしていだきたいのが人とのつながりと自分らしい生き方です。

より多くの人とふれあい、様々な経験をすることは会社生活においても大変重要です。個性の違う人を認め、何か問題にぶつかった時には解決法の選択肢を増やしてくれます。身の回りの狭い世界だけでなく、より広い視野を与えてくれます。そして、心が疲れたときには潤いをくれます。それが RICH LIFE の原点ではないでしょうか。

自分らしさを見失わないように、VIVID にいきたいものですね。

そして最後に、Let's have a rich life ——

ゼミ機関誌発行に寄せて

4期生 NTT コミュニケーションズ勤務
岡崎 将也

機関誌第4号の発刊、おめでとうございます。それと、ゼミにとっての飛躍の1年を記録した記念すべき機関誌の発行を手がけた5期生の皆さん、本当にお疲れ様でした。

私がゼミを卒業してから、まだ1年もたちませんが、その間に私の職場環境の方もずいぶんと変わってきました。今はNTTの国際会社にて財務会計を担当していきまして、ゼミで学んだテーマとは異なった実務的な仕事をしていますが、ゼミで培ったものごとの本質にあらゆる角度から迫っていく姿勢と、論点を突き詰めていくプロセスは、あらゆる環境にて通用する、いわばゼミがくれた財産のようなものだな、と改めて実感している次第です。

私がゼミ生だった頃に“ゼミさえしっかりしていれば、大丈夫”と先輩から言われたことを思い出します。それは、岩本ゼミという土壌にしっかりと根を張っていれば、その先、社会に出ていき、芽を出し、葉をつけ、花を咲かせ、実を結ぶことの大きいなる手助けとなることを示唆していたのでしょうか。ゼミ生の皆さんは、この岩本ゼミという、岩本先生、諸先輩が培ってきた豊かな土壌にいることを誇りにして下さい。今までゼミで学んできた考え方は、どんな進路を選ぼうとも、どんなにゼミのテーマとは違った仕事についても、自分の考えるべきこと、なすべきことを自ずと明らかにする大きな土台となってくれるでしょう。

これからの所謂、“実力主義”の社会が求めている人材は、付け焼き刃の資格を有する人間などではなく、しっかりとした考えをもとに、それに対応した行動、実行が可能な人間を求めています。岩本ゼミで着実な土台を築き上げられた5期生の皆さんが、それぞれの進路先においても大きな成果を出していかれることを期待していますし、また確信をしています。まずは、本当に、卒業おめでとう。本年の青竹会にて岩本先生、OB、ゼミ生のみなさんにお会いできることを楽しみにしています。

4期生 通商産業省資源エネルギー庁勤務
猪俣 明彦

記念すべき第4集の岩本ゼミ論集の発刊に際し、一言お祝いを申し述べたいと存じます。

これから御卒業される方、誠におめでとうございます。
研究を続けていかれる方、今後の活躍をお祈りしています。
いずれでもない方も、各々自分の道に頑張っておられるかと思われます。

私の方は、学生生活から公務員生活に移行して早一年近くが経とうとしていますが、一年目ならではのウンザリする業務に辟易しつつも、今後少しでも我が国の行政に貢献できるよう自分なりの努力はしているつもりです。

まだまだ岩本ゼミで学んだ素養が直接生かせるような業務は任されていませんが、いずれ、我がゼミの後輩が行政官を志望し、同じ行政官として寝食を共にしつつ、共に将来の行政のあり方について、日々考えていけるようになったらと、先生の意向とは裏腹に、腹黒く期待している毎日です。